

第 25 回中部地区審判講習会 検定員レポート

日 時 平成 25 年 2 月 16 日 9 : 45 開始
場 所 名古屋市枇杷島スポーツセンター第 2 競技場
参加者 交流組手試合 153 名
審判講習会 125 名

午前の部

対 象 * 審判講習参加者全員 9 : 45 ~ 10 : 15
* 審判員 5 審による実技をまじえての審判動作説明
* 入場から退場にいたるまでの礼法、諸動作
* 主審判定時の旗の数え方
* 副審の旗動作、笛の吹き方
C 級以上の受験者は、2 F 大会議室において学科試験 10 : 15 ~
第 2 競技場に於いて初心者講習
主審を D 級予備講習者、副審を初参加者、二回目参加者が担当し試合形式で行った
講師は準 S 級、A 級審判員が担当

考察

緊張のせい動作を間違える場面も見られた。
なれない中でも真摯に取り組む姿は素晴らしく、今後経験を積んでいくことで
技能向上をはかれると感じた。

午後の部

対象—講習 3 回目以上受講者
講師 S 級、準 S 級の検定員、準検定員が担当
3 コートで交流組手試合を行い実技審査及び、実技指導を行った

考察

課題 — 反則への対応がまだ甘くルールに対する厳格さが求められる内容であった。
特に間合いをつめて体を密着させる行為に対して、どちらがしかけているかという
判断が難しいようで、今後の課題として残った。
今回も多く参加者があり中部地区の先生方の意識の高さの表れであろう。
近年 Jr 選手の組手技術は格段に向上しており、高次元での判断能力を求められる。
その意味からも審判講習は必要不可欠でありより一層の努力を要することを強く
感じた審判講習会であった。

2014、3、15

光武会館 田上信也